

項目	7 アフターコロナにおける民俗芸能の振興について
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	<p>東アジア文化都市2023静岡県は、この12月3日に「ふじの式典」が盛大に開催され、12月23日に1年を総括するシンポジウムを開催して、フィナーレを迎える。</p> <p>本県は、アフターコロナ時代となる絶好のタイミングで、東アジア文化都市に選定され、全県で900を超える文化イベントが実施され、コロナ禍で沈みこみ、じっと文化を待ち望んでいた人々に、文化活動や鑑賞を再開するきっかけと勇気をくれ、まさに、文化の力が人々に活気を与え、豊かにすることを実感した。</p> <p>私の地元の森町でも、この機運に乗って、中止されていた多くのお祭りや伝統行事などの民俗芸能が、一斉に復活できたことを大変嬉しく思う。</p> <p>私は昨年9月の一般質問において、民俗芸能の継承支援の必要性について質問し、「地域が誇る多彩な民俗芸能が、県民の皆様に親しまれる貴重な文化資源として、絶えることなく着実に次世代に継承されるよう、様々な観点から支援を強化していく」という旨の答弁をいただいた。</p> <p>地域の人々が守り育ててきた民俗芸能の継承は、東アジア文化都市が目指す「文化による持続可能社会の創造」の理念を実現させるものである。今年、ようやく再開できた民俗芸能の勢いや関わる人々の想いは、必ずつなげてはならない。</p> <p>そこで、今年復活した民俗芸能の成果をどう評価し、その成果をアフターコロナ時代となる来年度以降、どのようにつないでいくのか伺う。</p>

<答弁内容>

アフターコロナにおける民俗芸能の振興についてお答えいたします。

民俗芸能は、昨今の少子高齢化や地域コミュニティの脆弱化に加え、コロナ禍により、令和3年度には開催予定の95%に当たる55の国・県指定等の行事が中止又は縮小を余儀なくされ、継承の断絶が危惧されていたところであります。

こうした厳しい状況下でありましたが、今年度は東アジア文化都市2023静岡県を契機として、地域の人々の強い意欲や想いにより、55の行事のうち49が通常開催することができ、民俗芸能が地域社会にとって、かけがえのないものであることを再認識する機会となりました。その一方で、民俗芸能を将来に渡って継承していくためには、保護団体をはじめとした地域のモチベーションの維持や、担い手の確保、県民の認知度向上などが課題であります。

このため、来年度は、関東周辺11都県を代表して本県で「関東ブロック民俗芸能大会」を開催するほか、指定された61全ての民俗芸能の解説付き動画の公開、民俗芸能の保存・活用を推進する優良団体の表彰などに取り組んでまいります。

さらに、専門知識を持つアドバイザーの派遣や、保存継承の課題等を情報交換する「ネットワーク会議」の開催、民俗芸能の用具の修繕等に対する助成など、保護団体

への直接的な支援にも注力してまいります。

民俗芸能は、無形の文化財であるがゆえに、地域の人々の保存への意欲と担い手の育成が継承の鍵となります。地域の誇りである民俗芸能を通じて、持続可能な地域社会の実現に向けて、地元市町や関係者と連携し、きめ細かな支援に努めてまいります。

以上であります。